

取手の芸術活動連携サポート事業

平成 26 年度『とりでアートの日。』実施報告書

事業実施者：

特定非営利活動法人取手アートプロジェクトオフィス

□ 実施プログラム一覧（全6事業）

A 世界に一つだけの「マイバッグ」を作ろう

日時：8月5日（火）10:00～12:00

講師：田中可伸（洋画家／文化工房ふじしろ）

参加者数：20名

B 小さな水族館アクアリウムを作ろう

日時：8月7日（木）①10:00～11:30 ②13:00～14:30

講師：浅野純人（美術家／あーと屋図工室）

参加者数：64名

C 古着でかつらを作ってかぶろう！-ぼうしでもなく、かみの毛でもない、頭をおおうもの。

日時：8月9日（土）14:00～16:50

講師：勝俣比加里（美大生）、川口蓮（美大生）

参加者数：7名

D 話そう！つくろう！夏の思い出ゴブリン

日時：8月18日（月）10:00～12:00

講師：小中大地（アーティスト）

参加者数：5組

E 手作り紙粘土のレリーフ（凹凸のある絵）をつくろう

日時：8月23日（土）13:00～15:00

講師：小原馨（画家／取手美術作家展会員）

参加者数：18名

F マーブリングでつくる海の世界

日時：8月24日（日）13:30～15:00

講師：椎葉聡子（画家／井野アーティストヴィレッジ）

参加者数：25名

合計参加者数 139名

A 世界に一つだけの「マイバッグ」を作ろう

日時	8月5日(火) 10:00~12:00
講師	田中可伸(洋画家/文化工房ふじしろ)
持ち物	絵の具、端切れの布、はさみ、のり
参加費	200円
対象	小学生以上



自由な発想で色とりどりの布を様々なかたちに切り取り、布製のバッグに貼り付けた。アクリル絵の具や油性マジックで絵を描いたり色を付けたたりして、とってもおしゃれなオリジナルのバッグが完成。最後にみんながつくったものを一堂に飾り、それぞれの個性の光る作品たちをみんなで眺めた。

B 小さな水族館アクアリウムを作ろう

日時	8月7日(木) ①10:00~11:30 ②13:00~14:30
講師	浅野純人(美術家/あーと屋図工室)
持ち物	はさみ、持ち帰り袋
参加費	500円
対象	5歳児~小学生



ガラス瓶に小石や貝殻、参加者がデザインした魚などを入れて自分だけの水族館をつくった。鮮やかな色に彩られた水族館が出来ると、こどもたちの表情はとても明るくなり、大喜びの様子だった。

C 古着でかつらを作ってかぶろう！-ぼうしでもなく、かみの毛でもない、頭をおおうもの。

日時	8月9日(土) 14:00~16:50
講師	勝俣比加里(美大生)、川口蓮(美大生)
持ち物	はさみ、セロテープ、いらなくなった服、持ち帰り袋
参加費	500円
対象	小学生



スタート直後はなかなか作業が進まなかったが、講師が直接語りかけると、少しずつ緊張もほぐれ、もくもくといらなくなった洋服を裂く作業に没頭し始めた。出来あがったかつらをかぶると、同じ子どもとは思えなくくらはしやぎ回り、扮装することを心地よく体験していた。

D 話そう！つくろう！夏の思い出ゴブリン

日時	8月18日(月) 10:00~12:00
講師	小中大地(アーティスト)
持ち物	特になし
参加費	500円
対象	小学生、保護者



「夏の思い出」をテーマとした親子の会話を録音してオリジナルのCDづくりを実施した。ジャケットの表と中身には小中氏が提唱する、自分の内面に存在するキャラクター化した“ゴブリン”を、思い思いに表現した。初めは照れくさそうな会話の録音も、会話だけに縛られることなく、歌など多彩な表現方法が自発的に始まり、夏の思い出にぴったりの作品となった。

E 手作り紙粘土のレリーフ（凹凸のある絵）をつくろう

日時	8月23日（土）13:00～15:00
講師	小原馨（画家／取手美術作家展会員）
持ち物	無地のトイレットペーパー、水彩絵の具、ゴミ袋×2枚
参加費	500円
対象	小学生



水にトイレットペーパーを浸し、絞ったあとに糊を加えてよく捏ねることで、あっという間に紙粘土が出来上がった。普段、自分の家では絶対にできないこの作業に子どもたちは大喜び、美術が楽しいものだという事を身体的に記憶してもらえるととても良いワークショップだった。導入の作業が感性を刺激したのか、完成した作品もとても良いものが出来上がった。

F マーブリングでつくる海の世界

日時	8月24日(日) 13:30~15:00
講師	椎葉聡子(画家/井野アーティストヴィレッジ)
持ち物	はさみ1本(こども用)
参加費	300円
対象	5歳児~小学生



3種類の液体を水面に落とし紙を浸すことで、不思議な模様を画用紙に定着させる。乾かしている間に海をテーマとしたスタンプをプラスチック段ボールで象る。版画と同じ手法を用いて表面を削ることで、反転した模様が写しだされる。削る深さやインクの量、スタンプを押す圧力、色々なことを予測・計算しながら、作品づくりに没頭していた。